

一般花壇部門

総 評

審査は7月30日、31日の2日間、県内16カ所の花壇で行いました。今年、5月以降平年に比べかなり高い気温で推移し、審査日直前には大雨に見舞われたにもかかわらず、色鮮やかで生育旺盛な花壇が多くみられ、これまでの徹底した土づくりや丁寧な灌水管理など、高度な栽培管理の賜物であると強く感じました。近年、宿根草や花木が積極的に花壇に導入される一方で、一年草のコリウスやハゲイトウなどカラフルな色合いの品種が複数植えられたり、ヒポエステスなど耐暑性のある観葉植物が植えられるなど花壇全体の色彩の豊富さに驚きました。また、上市町の花壇ではソーラーパネルのイルミネーションで花壇が装飾され、夜間も楽しんでもらいたいという発想に驚きました。こうした品目・品種に関する知識や花壇づくりを楽しむ個性的なアイデアが、魅力ある花壇づくりには必要不可欠だと感じました。また、魚津市のみらパークコミュニティガーデン倶楽部では、親子参加・体験型の花壇づくりに取り組まれとても興味深いものがあり、今後の発展的な活動に期待しています。

最優秀賞評

最優秀賞を受賞されました射水市の「中太閤山コミュニティセンター」の花壇は、リニューアル3年目の比較的新しい花壇で、岩を配置したり土を盛るなど花壇に起伏や奥行きを設け、立体感と躍動感あふれる生き生きとした見ごたえのある花壇でした。植栽されている植物は宿根草も多く、全体的に花や葉の色・形、草姿が極めて豊富、かつ、バランスよく植えられ、調和がとれている中であって迫力もあり圧倒されました。また、花壇の枠からはみ出したペチュニアを剪定せずに太い竹筒を何本も敷きつめてアスファルトに直接触れないよう保護するなど、植物への思いやりが強く感じられました。

(審査委員長 大島 晃)